

## 2.6 海岸・港湾 最新問題演習

チェック

H30-A 問題37 離岸堤に関する次の記述のうち、**適当でないものはどれか。**

- (1) 碎波帯付近に離岸堤を設置する場合は、沈下対策を講じる必要があり、従来の施工例からみればマット、シート類よりも捨石工が優れている。
- (2) 開口部や堤端部は、施工後の波浪によってかなり洗掘されることがあり、計画の1基分はなるべくまとめて施工することが望ましい。
- (3) 離岸堤は、侵食区域の下手側(漂砂供給源に遠い側)から設置すると上手側の侵食傾向を増長させることになるので、原則として上手側から着手し、順次下手に施工する。
- (4) 汀線が後退しつつある区域に護岸と離岸堤を新設する場合は、なるべく護岸を施工する前に離岸堤を設置し、その後に護岸を設置するのが望ましい。

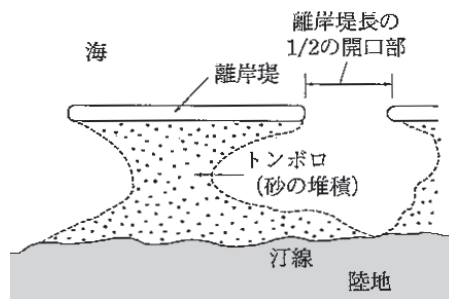
ポイント解説 離岸堤は、下手側から着手し、順次上手に施工する。

正解 (3)

- (3) **誤** 複数の離岸堤を設置するときは、下手側(漂砂を堆積させたい海浜/漂砂供給源から遠い側)から上手側(漂砂の供給源となる河口/漂砂供給源に近い側)に向かって施工する。侵食区域の上手側から設置すると、下手側の侵食傾向を増長させることになる。よって、(3)は不適当。
- (1) **正** 捨石工の上に離岸堤を設けると、離岸堤の沈下を抑制することができる。マット・シート類は、碎波帯付近に使用すると流されるおそれがあるので、沈下対策として用いるのは適切でない。
- (4) **正** 汀線が後退している海岸では、海岸堤防(護岸)を造る前に、離岸堤を造ることが望ましい。

参考

- **離岸堤**：汀線から5m程度離れた沖合に設けられる堤防である。漂砂を捕捉し、海岸侵食を防ぐために設けられる。離岸堤の長さを、波の波長の半分以上とすることで、波の回り込み(回折)を防ぎ、堆砂効果を得ることができる。



離岸堤による漂砂の堆積